

毎週日曜発行  
2025 3/30

# こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



米国生まれのスポーツ「ピックルボール」って知ってる？ テニスやバドミントン、卓球の要素を組み合わせた競技なんだ。宮城県大和町で普及に取り組んでいるのはサイモン・バーネットさん(52)と妻の里奈さん(38)夫婦。「初心者でもすぐ楽しめるよ」と笑顔を見せます。

## サイモン・バーネットさん(52)

### イギリス出身 / ピックルボールサークル代表

ピックルボールはネットを挟んで、穴の空いたプラスチックのボールを、板状の道具「パドル」で打ち合う競技です。コートはバドミントンと同じ。ゆっくりプレーすれば初心者や高齢者も楽し

めて、上級者の試合はスピードやパワーで迫力満点です。本場米国にはプロリーグもあるんだ。

## あなたの隣の 外国人



きょうのテーマ



サイモンさん

サイモンさんはイギリスのストラトフォード・アポン・エイボン生まれ。世界を旅する中でニュージーランドに渡り、そこで出会った里奈さん

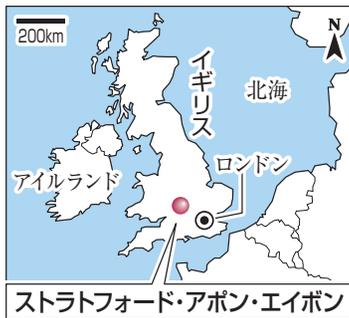


# 競技普及させ 交流深める



サークルのメンバーとプレーを楽しむサイモンさん(左) =14日、宮城県大和町

と結婚しました。バドミントンのサークルを主宰していましたが、知人にピックルボールを紹介され、「面白さに引き込まれた」といいます。



ストラトフォード・アポン・エイボン

2021年に里奈さんの地元である大和町に移住し、サークル「タチカゼピックルボール」をつくりました。町内に高齢者が多く、ピックルボールを生涯続けられるスポーツにしてほしいと考えています。現在では10代から70代まで、幅広い世代が参加しています。

「タチカゼ」は、日本刀を鋭く振り下ろしたときに起きる風を意味する「太刀風」から取ったそう。「パドルがヒュッと風を切る音にも通じるんだ」とサイモンさん。日本古来の武道の技術と精神性を敬う気持ちをサークル名に込めました。



サイモンさんはピックルボールを楽しみ、メンバー同士が交流を深めることを特に重視しています。「みんな最初は恥ずかしがるけど、楽しければ自然と会話が生まれる」とサイモンさん。

将来はピックルボールが学校の授業に採用されることが目標です。「自分のペースで楽しめるスポーツ。楽しみながら、自己肯定感を育ててほしいんだ」

◇ 宮城県内の愛好者の輪が広がって、授業に取り入れられるといいね。

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

### 今週の注目ニュース

◇31日(月) 「177」終了  
電話で天気予報を提供するNTT東日本、同西日本のサービス「177」が終了します。1955年に始まり、地域の気象情報を聞くことができました。スマホの普及などにより利用が減ったそうです。

### きょうの紙面

- 2面 ニコ☆プチモデルと体験!
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 くわしく学べる! こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 かほく防災記者